

渡良瀬遊水地と周辺地域のコウノトリ

渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）会長 一色安義

平成 29 年 5 月 30 日、栃木市藤岡町甲の水田に、野田市生まれのコウノトリ「ひかる」が渡来、田んぼの中に立ちこんでオタマジヤクシと思われる小さい餌ばかりをさかんに食べていました。近くではダイサギがドジョウを獲り、トウキョウダルマガエルが盛んに鳴いているのに……。

渡良瀬遊水地・その周辺地域にコウノトリが渡来した記録は、昭和 62 年（1987 年）冬に本物（？）のコウノトリが渡良瀬遊水地に飛来して後、絶えて飛来はありませんでしたが、平成 26 年 10 月に渡良瀬遊水地の上空を、豊岡の「コウノトリの郷公園」由来の 7 羽のコウノトリが通過して以降、27 年 8 月に埼玉県加須市飯積（旧北川辺町）に京丹後市生まれの若鳥が、28 年 10 月に渡良瀬遊水地第 2 調節池に「ひかる」の兄弟「きずな」が、そして今回の「ひかる」の飛来と続いています。7 羽の通過個体を除くとそれぞれの渡来地の地形や採餌環境、滞在期間も異なりますので、その様子を写真を使いながら追ってみましょう。。

① 平成 29 年 5 月 30 日に野田市生まれのコウノトリ「ひかる」が栃木市藤岡町甲の田んぼに渡来。「ひかる」は昨年 3 月 28 日生まれで、同年 6 月 4 日に放鳥された幼鳥です。姿がみすばらしく、少し小さく見えたのですが……。

ここの地形は多少の起伏があり、低部は広く田んぼが開け田圃の中央を蓮華川が流れています。それらを斑状に囲んで緑の樹林を載せた高みがあり、ところどころに谷津田を想わせる景観もあります。蓮華川は数百メートル下流で渡良瀬川と合流しますが、本川が増水すると逆流して田んぼが水没する被害が多発する地域でもあります。渡良瀬川水系の水が、関東ローム層の台地を浸食して出来た低地なのかもしれません。



（渡来地の景観。樹林を載せた高みがパッチ状にある）



（コウノトリとトラクター）

以下、採餌活動の一部を写真にしたものです。成育歴や幼さによるものなのか、捕りやすいオタマジヤクシばかり食べているように見えました。オタマはドジョウやカエルと比較すると総重量ではそれほどにはならないし、栄養価でも劣ると思います。ドジョウやカエルは手に余る、という感じで……。



（オタマをすくい上げ、空中に投げ上げて喰う。背負った発信機が見える）



（カエルを取ったが不安定）



(苦勞してドジョウを捕らえたが・・・逃げられちゃったあ！)



(ミミズで我慢・・・)

滞在期間は5日間、餌となる小動物が豊富であることが、ダイサギの採餌活動や賑やかに鳴き騒ぐカエルの声などからもうかがい知ることが出来ます。ここは、狩場としての一定の役割を果たし得る地域といえると思います。孵化後、約14ヶ月目の渡来でした。

② 平成28年10月3日、「ひかる」といっしょに生まれ、いっしょに放鳥された「きずな」が、渡良瀬遊水地第2調節池の再生されたばかりの浅い沼のほとりに渡来しました。



* (渡良瀬遊水地第2調節池は、国交省が専門家等からなる懇談会の提言を受けて、平成22年に策定した「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」に基づいて、湿地の再生と、治水機能の強化のための掘削工事が続けられています。工事は長期に及び完了の見通しは立っていません。

左の写真は掘削後約3年が経過した人工の沼で、そのほとりに「きずな」が飛来しました。)



(芋虫？を捕える)



(掘って間もない沼・何にもいないなあ)



(発信機を背負って・・・)

「きずな」は3日午前8時ごろに飛来、水辺やヨシ原に続くまばらな草原で採餌していましたが、水辺での採餌の成功は確認できませんでした。草原では昆虫や毛虫をついばむのは観察できましたが、その間、餌を探して小移動を繰り返していました。「ひかる」の渡来時とは孵化後の日数が違いますが、魚やカエルと比較して栄養価や効率の良くない毛虫やおタマジヤクシを多く獲る共通点は、幼さや成育歴によるものなのではないでしょうか？「ヒカル」の渡来は秋、「きずな」は初夏の渡来で、対象となる餌動物には違いが出ています。

飛去は翌日の午前11時、滞在時間も27時間と短く、このことから工事が進行中の第2調節

池の自然度は低く、現状では一定期間を滞在する大型鳥類を養うだけの餌動物が生息していないと思われます。一定期間の涵養が必要だと思います。孵化後7ヶ月の飛来でした。

③ 平成27年8月13日、埼玉県加須市飯積地先(旧北川辺町)のオニバスの自生地周辺の田んぼに1羽のコウノトリがやってきました。平成25年3月に、豊岡の「コウノトリの郷公園」由来のコウノトリで、京丹後市で自然繁殖したうちの1羽。2歳5ヶ月の立派な若鳥でした。京丹後市付近では戦後も多数のコウノトリが繁殖していて、今でも、繁殖していたころの地形をはじめとする自然環境などの痕跡が残っているそうです。長い時間をかけて獲得したコウノトリの習性がそうしたところを繁殖地として選択させているのでしょう。

北川辺町は利根川と渡良瀬川に挟まれ、町の南東端で両河川が合流、町内の地形はほとんど起伏がなく、水路、ホソが縦横に掘られています。なお、渡良瀬川の対岸に古河市「鴻巣」という地名と、室町時代の古河公方の居館、鴻巣御所なる史跡があり、そこには台地の名残と御所沼と呼ばれている大きな沼があり、一見、谷津田を想わせる景観が残っています。北川辺のコウノトリの渡来と関係付けて考えてみるのも面白いと思います。同所間の距離は約2キロです。



* (左はオニバスの自生地から北を望んだ写真です。その沼や近くのホソを覗くと、メダカやクチボソなどの小魚や、トウキョウダルマガエルやエビガニが沢山いるのが分かります。北川辺は古くから豊富な水を使って、金魚や錦鯉の養魚が盛んで、最近では琵琶湖特産のホンモロコシの養殖も始めています。地域では農薬には敏感なようです。)

(左から
エビガニ
ダルマガエル
ドジョウ
を獲る)



滞在期間は8月13日から24日までの12日間。北川辺は餌動物が豊富で優れた狩場といえるでしょう。なお、田んぼでイナゴ(?)も少しは喰っていましたが。

国交省利根川河川事務所の所管で「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」では、渡良瀬遊水地周辺地域にコウノトリを招き入れたいとの意向で検討が続けられています。コウノトリが長い時間を掛けて習得した習性に則った対応として、地形、植生、土地利用等に目を向けた多角的な考察が求められると思います。

「きずな」、「ひかる」が成長して、どこから相手を求め、どこを選んで巣作りするのでしょうか? 楽しみです。

(写真提供 渡良瀬遊水地野鳥観察会と支援者の皆さん)

平成29年6月30日

【追補】

平成 29 年 8 月 2 日、野田市が放鳥したコウノトリが渡良瀬遊水地付近を通過した、との話がありました。見た人はありませんでした。ところが 8 月 8 日、迷走を続けた台風 5 号が日本海側を北東に向けて通過するさなか、今年の 5 月に栃木市藤岡甲の田んぼに飛来した野田市の「ひかる」が、昨年 10 月に「ひかる」の兄弟「きずな」が飛来した渡良瀬遊水地第 2 調節池の、再生されたばかりの沼のほとりにやってきたのです。(写真①)

5 月に藤岡に飛来してから 3 ヶ月足らず、「ひかる」はずうっと逞しく成長した姿で現れました。飛去は 8 月 29 日、22 日間の滞在ですが、どちらかという、主にそこをねぐらとして利用していたように思われます。

8 月 8 日は午前 8 時前後に飛来、沼のへりを一周したが獲れたのはタニシ(?) 一個だけ(写真②)。工事現場近くの丈の低い疎らな草地で昆虫(?) を獲ったりした後いったん飛去し、工事の対象外でそのまま手付かずに残っている第 2 越流堤下の水溜りでカエルや小魚、エビガニなどを獲っていました(写真③、④)。

8 月 18 日に、飛来したばかりの頃、工事現場近くの草原でキツネ(写真⑤)に襲われると言うことがありましたが、コウノトリは、通常ではキツネごときはものともしない、そうです。あの嘴ですからね。

翌 19 日には遊水池から東に約 2 キロ離れた栃木県野木町の中学校の運動場のポール上に止まっている「ひかる」が観察され(写真⑥)、その後の幾日かはその周辺の田畑でダルマガエルやエビガニを狩っていたようです(写真⑦)。野木町は渡良瀬遊水地・思川の東岸からせり上がった平坦で広い台地で、その昔は野木ッ原と呼ばれ、畑作中心でしたが今では田んぼも混在します。元々は乾燥した土地で用水掘りも貧弱です。コウノトリってこんなところにも来るんですね(写真⑧)。

その後はそこから北西に 2 キロほど離れた狭い流入河川、石川の付近で過ごすことも多くなりました。その周辺は工事は未着工で流域のヨシが刈り取られていて、狩には都合が良かったのかも知れません。

ねぐらも再生されたばかりの沼の付近の草原から、流入した与良川の監視塔上(写真⑨)に変わり、主な狩場も与良川機場の外側の溜まりで積極的に狩りをするようになり、大きなダルマガエルを幾匹も獲って、それをくわえた姿は凛々しく、少し誇らしげにも見えました(写真⑩)。

そこは昔、寒鰯つりの名所で、そのころとは様変わりしたとはいえ、自然度の高さはそのままなのでしょう。ここでは安定的に狩をしていました。

後半になると、日中、遊水池内で「ひかる」を見かけないことが多くなりました。西の方の巴波川近くの田んぼにいたとか、加須市の北川辺の方に飛んでいったとかの情報を得て、それらの場所や、過去に飛来の実績のある地域を探してみたのですが、居所不明でした。夕暮れ時には遊水池に戻ってくるのですが。

渡来以来狩場を転々と変えていきましたが、そこでの餌をあらかじめ食べ尽くして次の狩場を見つけて移動しているのでしょうか。過去の渡来の例にはなかったことです。コウノトリが大食漢であることが伺われます。あのズウタイですからね。

渡良瀬遊水地上空を 7 羽のコウノトリが通過したことがあります。多数のコウノトリが一度にやってきましたら一部の野鳥にとってコウノトリの食欲は脅威になりますね。

「ひかる」は 8 月 29 日、与良川の監視塔上に 3 時間あまり止っていましたが、北西方向に飛去したそうです。「ひかる」は平成 28 年 3 月 28 日生まれ、1 歳と 5 ヶ月になります。次にはどんな姿を見せてくれるのか、楽しみです。

終わりに、写真で経過を追ってみましょう。



(①「ひかる」の飛来)



(②タニシ?を獲る)



(③越流堤上の「ひかる」)



(④越流堤下の餌場)



(⑤工事現場を散歩?するキツネ)



(⑥野木二中)



(⑦エビガニを喰う)



(⑧野木町・散歩する人と「ひかる」)



(⑨与良川
監視塔上のねぐら)



(⑩見たか! でっかいカエル!)

